

9

ハイライト

CO₂フリーの 輸送サービスの提供



JR秋田下浜風力発電所

私たちが目指すこと



JR東日本グループが消費する電力は年間約58億kWh、一般家庭約160万世帯分に相当します。地球規模での気候変動や2020年度以降の地球温暖化対策の新たな国際枠組みであるパリ協定を受け、JR東日本グループも持続可能な社会の実現にむけて事業にかかるエネルギーの削減に取り組んでいます。

東北エリアを中心に再生可能エネルギーの開発と活用に取り組み、東北エリアで走行する電車のCO₂フリー化「東北エリアCO₂排出量ゼロ」を目指します。

JR秋田下浜風力発電所を活用した「CO₂フリー電気」

2019年7月1日より、男鹿駅で使用する電気を、JR秋田下浜風力発電所を活用した「CO₂フリー電気」に切り替えました。この電気は、再生可能エネルギーで発電された電気を持つ環境価値(CO₂が排出されないこと)を証書化した「非化石証書^{※1}」を活用することで、CO₂の排出量を実質的にゼロとしたものです。

具体的には、JR秋田下浜風力発電所で発電されたFIT電気^{※2}を買取りしている東北電力株式会社が、同発電所のトラッキング情報(環境価値の由来となった発電所を明らかにする情報)が付与された「非化石証書」を調達し、FIT電気と組み合わせることで男鹿駅に供給します。この電気をJR東日本が購入することで、男鹿駅で使用する電気は、JR秋田下浜風力発電所由来のCO₂排出量ゼロの電気として取り扱われます。



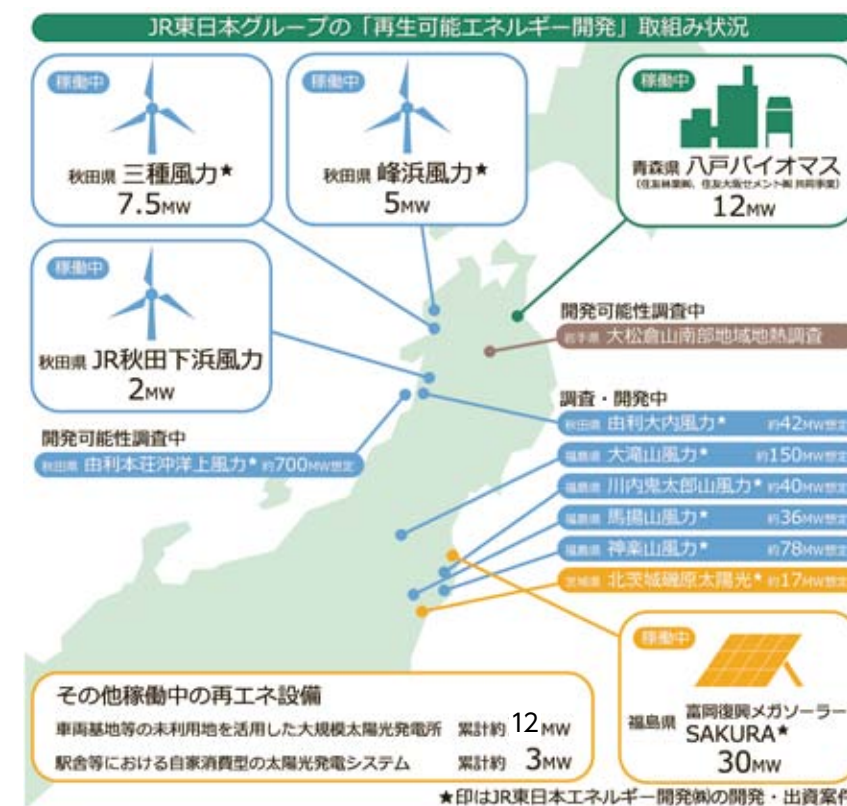
※1 非化石証書:再生可能エネルギーなどのCO₂を排出しない電気を持つ環境価値を取り出し、証書化したものです。「非化石証書」を組み合わせた電気は、発電の過程でCO₂が排出されない電気として取り扱うことができます。今般の取組みでは、電源種別や発電所所在地などのトラッキング情報を付与することで、環境価値の由来となる発電所が明らかになった「トラッキング付非化石証書」を使用しています。

※2 FIT電気:固定価格買取制度(FIT)の対象となる再生可能エネルギーで発電された電気のことです。「非化石証書」を活用しない場合のFIT電気は、火力発電所などと同様にCO₂を排出する電気として取り扱われます。

東北エリアで走行する電車のCO₂フリー化

JR東日本エネルギー開発(株)が推進する風力発電事業を中核として、東北エリアを中心に各地で風力・太陽光・地熱といった再生可能エネルギーの開発に積極的に取り組んでいきます。

併せて、開発した再生可能エネルギー由来の「非化石証書」を活用した「CO₂フリー電気」を電車に供給することで、お客さまに「環境にやさしく持続可能なCO₂フリーの輸送サービスの提供」を進めていきます。この取組みにより、東北エリアで走行する電車のCO₂フリー化「東北エリアCO₂排出量ゼロ」を目指します。



VOICE

再生可能エネルギーの導入拡大



JR東日本エネルギー開発(株)
菅原 健作

を行っています。

2023年には福島県にて大規模風力発電所の運転開始を予定しており、福島復興のシンボルとなることを目指しています。

また洋上風力発電の実現に向けた調査も進めており、再生可能エネルギーの導入を通じてJR東日本グループの発展に寄与していきます。

CO₂フリー電気の実現



東日本旅客鉄道(株)
電気ネットワーク部
小林 一樹

当社が導入してきた大規模再エネ発電所の多くは、発電した電気を電力会社に送電するために全国の送配電網と繋がっています。これを利用して環境にやさしい電気を鉄道に取り入れる方法を検討したところ、電力会社にも協力をいただきCO₂フリー電気が実現しました。この電気は電力システム改革で新たに創設された非化石証書という仕組みを活用しています。今後も世の中の変化を捉え、取り入れることで持続可能な社会を目指します。

関連記事についてはP99～P103をご参照ください